

呉市手をつなぐ育成会 ～12月号～

育成会だより



障がい児者を守り,その福祉の向上を図ることを目的とします。

2023年令和5年12月1日発行

呉市手をつなぐ育成会

会長 中川 潤二

〒737-0051

呉市中央5丁目12-21

呉市福祉会館 3階

Tel (0823)24-2260

Fax (0823)24-2568

E-mail kure-teotunagu

@herb.ocn.ne.jp

<http://kure-teotunagu.org/>



呉市立両城小学校 たんぽぽ・ドリーム学級
作品名「みんなのメリークリスマス」

もくじ

- 表紙 呉市立両城小学校
- P.2 「H先生のこと」会長 中川 潤二
末政さんのプルタブ寄贈
- P.3 知ってほしい・知っておきたい 知的障害と「警察」
サロン『みんなの話(わ)』案内
- P.4.5 連載2 手をつなぎ生きる シナモンロール
「次男との10年間にここに綴る 第2章」
- P.6 ぼくの学級！わたしの学級！
呉市立蒲刈中学校
- P.7 本人活動報告 お隣のアスリート/南部昭一
『燃ゆる感動鹿兒島大会』を終えて/桑田拓弥
- P.8 お礼 ご案内 お知らせ 広告 編集後記

12月の予定

- 12月10日(日)
クリスマス会 10:00~12:00
受付 9:30~(呉つばき会館 607)
- 12月16日(土)
いくせい太鼓 14:00(呉つばき会館)
- 12月17日(日)
本人部会会議 10:30(呉つばき会館)
うたう会 13:30(呉つばき会館)
★次回発行予定は1月1日です
★12月29日(金)~1月4日(木)
年末年始閉所致します





「H 先生のこと」

会長 中川 潤二



現役時代の半数近くを一緒に過ごさせて頂いた先生がいます。その先生から「書いて考える」ということを学びました。そしてもう一つ。「今すぐ役立ちそうにないけど、いつか役立つのが直接体験だ」と二つの学校で指導して頂きました。

その先生が療養のために娘さんのいる山口へ行かれる少し前に、病院にお見舞いに行きました。丁度、奥さんもおられなくてスタッフから「最上階へ行かれたら。」と言われました。車いすを押して上がりました。展望が広がって呉の港が良く見えました。最初に出会った学校も良く見えました。同学年で指導してもらった学校です。先生は、ずいぶんしんどそうでしたが、海と船と学校を見ながら、話しているうちに当時の事も思い出されたようで、「あんなことをしたの、こんなことがあったの。」と嬉しそうに話をしてくださいました。2時間ぐらいの時間が過ぎていました。先生の最初の赴任先が島の学校で、時間がある時はよく本を読んだと言われたことも思い出しました。教師になって目の前のことに忙殺されて本を読まなくなっていたことを反省したのも先生のおかげです。



海を見ながら…。実は次の海のそばの学校で、一緒に仕事をさせて頂きました。そんな海のそばに

ありながら、海に直接触れていない子も多くいました。H先生の許可を得て、何時間か近くの浜に連れて行きました。(中学校の生徒指導の加配の先生が理科の先生で、よく一緒にきてくださいました。)何時間かあると、潮の満ち引きも実感できます。そこで詩を書いたり、絵を描いたり、図工で作った船を浮かべたり、クラブ活動では魚釣りをしたり、その浜には大潮の引き潮の時に、ウミウシが産卵にやってきます。ラーメンのような卵です。低学年の先生は、教室のベニバスやたらいに海水をいれ生き物を飼育して、触らせていました。ぶるぶるちゃんや名付けて平気で手のひらに載せていました。



それらの経験が、子供たちにどのように役立ったかよく分かりませんが、子供たちの五感は磨かれたと思います。ふるさとを愛する心も育んだと思います。私自身 H先生の教えは浸みこんでいます。身の回りの自然を、五感をしっかり使って感じる事が大事だと思います。大人が感動したことを素直に言葉に出せると、きっと役立つ体験として残ります。



～ プルタブの寄贈 ～

末政さんの集めてくれていた「プルタブ」を呉市立本通小学校に寄贈！



10月27日。本人部会の末政 隆さん(おんど観光文化会館うずしお勤務)がコツコツ集めてくださっていたプルタブを、本通小学校に持参しました。事務局長が末政さんの代理で校長先生に手渡しました。





知ってほしい・知っておきたい



警察に「知ってほしい」こと

特性…知的障害者は「感覚が過敏」な人がいます

一般の人だったら何とも思わない、あるいは心地よいはずの「音」や「物」や「接触」に対して、知的障害者や自閉症の人の中には、過敏に反応し、あるいは極端に嫌がる人がいます。

しかも、急に大声で呼びかけられたり、多くの刺激物が目に入ったり、体に触られたりした時に、「そんなことはしないで下さい」「やめて下さい」という、言事での反応をすることができないために、パニックに陥る場合があります。

パニック症状としては、「目を逸らす」「手を引っこめる」、ひどくなると、「自傷行為(自分で自分の身体や衣類を傷つける)」、「他害行為(近くにあるものや、気になるに対して攻撃する)」、あるいは刺激から身を守ろうとして「目や耳を塞いで閉じこもる」、あるいは逆に「暴れたりする」こともあります。

一旦パニックを起こすと、平常心に戻るのに時間がかかり、本人も苦しく、周りの人も対応に苦慮することになります。

急に驚かせたりすることなく、穏やかに対応することが大切です。

虐待の被害に遭った場合でも、言葉で訴えることができないために、自傷行為や他害行為に出ることもあります。本人の障害自体の問題なのか、外からの不適切な刺激によるものなのかを、判断する必要があります。

※「知ってほしい・知っておきたい知的障害と『警察』より抜粋」



カレンダーを見ると、今年も残りわずかです。

年末年始は家族だけでなく、親戚や地域の方たちと過ごす機会も多いのではないのでしょうか。皆さんは子どもさんと一緒に、どのように過ごされますか。

行事を通し、たくさんの人との関わりの中で、経験や思い出が増えますように…。また、普段とは違う環境で大変な場面もあるかとは思いますが、安全には十分に気をつけて思い出を作ってください。 【松岡】



サロン「みんなの話(わ)」

悩みは？なんでも話して なんでも聞いてみませんか



日頃、子育てで困っていること、感じていること、就学の悩み、将来の不安など、いろいろな事を参加された方々と共有できたらいいですね。
今回は特に子どもさんの年齢は決めていません。
できるだけ多くの方にお声を掛けていただき、是非ご出席ください。

日 時：令和5年1月23日(火) 10時～12時
場 所：呉市福社会館3階 会議室
申込み：育成会事務局 ※締切り：1月16日(火)





生後間もなくから起きていた震えやカミは、痙攣(けいれん)で、病名は「結節性硬化症」。脳の一部に石灰化が起きていました。入院中、たくさんの親御さんと話をして、世の中には本当にたくさんの病気があることを知り、「病気であることが特別なのではなくて、健康であることの方が奇跡なんだ」と強く感じたシナモンロールさん。いよいよ自宅での生活が始まります。そんな矢先…

【第2章】

2ヶ月のリハビリセンターへの入所期間を経て、久しぶりに家族での日常が戻りました。

長男が3才になって、幼稚園を決める時期になりました。次男が熱を出すと入院しなくてはいけないので、自分たちだけで生活するのは難しく、どちらかの両親に頼らなければなりません。

そこでまず、一人っ子である夫の実家で同居する方向で話が決まりました。舅は孫が可愛くて喜んでいましたが、自分たち夫婦以外の人間が同じ家にいることがストレスになるからという理由で、同居には至りませんでした。私も初めは気を遣って、世話になるかとは言ってみたものの、自分の両親に世話になる方が気持ちも楽です。

それから急いで実家近くの賃貸物件を探しましたが、なかなか見つかりません。長男の幼稚園のこともあるため、とりあえず実家に転がり込む形となりました。

長男は幼稚園に通って、次男は定期的に病院とリハビリに通う…。そんな生活を送っていた時、舅が「わしは昔の人間じゃけん、息子が嫁さんの実家に住み続けることは…」と言ってきたのです。

賃貸物件がないことは既に分かっていた。実家のすぐ近くに土地が売り出されているから、もう家を建てるしかないのか…。



夫婦で話し合っ(ケンカもあって)その土地を買って、家を建てることに決めました。



これで問題はなくなったはずですが。

新居が建ってからは、実家と行き来しながら母に息子たちの面倒をみてもらいました。

次男が3才になって、児童発達支援センターに入園できることが決まりました。ここへの入園に関してはいろいろな話を聞いていたので半ば諦めていたのですが、障がいのある次男が所属できる場所ができて、本当に嬉しかったです。次男の通園グッズを買う時の喜びは今でも忘れません。病院で知り合っ(て)家族ぐるみの付き合いをしていた1つ下のS君と一緒に入園しました。次男にも私にも心強い仲間です。2人の担任は同じ人になり、初めての面談の時、S君のお母さんと私で子どもの経緯など説明し、先生からは園の説明などあり、最後に「お母さんの時間もできますよ」と言い終わるのを待たず、S君のお母さんが「この人いつも好きなことしようるんよ」と私を指さして言いました。その時はみんなで「ハハ」と笑って終わっていたのですが、数年後担任の先生と話す機会があり「あの時は衝撃でした」と言われました。「お母さんの時間もできますよ」と言った時、大概のお母さんは涙ぐんだりして、その言葉が深く胸にしみるらしいのです。

私はいつでも母が助けてくれたので、一度も悩むことなく自分の都合で動くことができていました。とても恵まれた環境だったと思います。

児童発達支援センターでは日々の療育と、季節の行事がありました。中でも夏のプールが次男のお気に入りだったようです。私にも先輩母たちの話を聞く場がありました。その中の1つに印象に残っているお母さんの話があります。「上の子に障がいがあって、その子を呼ぶ時は「くん」を付けているのに、下の子を呼ぶ時は呼び捨てであることを下の子に指摘されて、呼び方を変えた」という話がありました。私ははっとさせられました。兄弟の上下は違いますが、次男にだけ「くん」を付けていたのです。その日から私は2人とも呼び捨てにするようにしました。上の子を始め周りの人たちが気づいていたかは分かりませんが、急に呼び方が変わって次男は驚いていたかもしれません。

次男が年中の時に三男が誕生して、次男もお兄ちゃんになりました。

三男の離乳食が始まって、次男と三男にご飯を食べさせます。本当は、次男→三男→私にご飯を口にしたいのですが、食欲旺盛な三男。実際は次男→三男→三男→次男→三男→三男…と、いつも私のご飯は後回しで冷め切ってしまって、レンジで温め直して食べる日々。「こんな生活がいつまで続くのだろう…」と、途方に暮れる日もありました。



三男が立ったり座ったりできるようになってからは、夫の帰りが遅い日に長男が三男と一緒に風呂に入ってくれたり、面倒をよくみてくれたりしました。三男はとにかくよく動き、次男の上を乗り越えたり水筒を持って次男に激突したりと、まるで怪獣のよう。次男は三男の存在をどう思っていたのでしょうか？可愛い弟と思っていたのか、なんじゃこりやと思っていたのか…。

長男はおとなしくてしっかり者、次男はのんびりマイペース、三男は「ザ・三男」「ザ・末っ子」といった性格・性質で、三男が生まれてからは、私のストレス値は絶好調に高かったと思います。「早く人間になれ！」といつも念じていました。周りの人に、「こういうガンボな子は小学校3年生になれば落ち着くから」と慰められたこともあります。「3年生か〜。あと何年？長すぎる〜」と、どうにかこうにか生活していました。両親や家族、友人の助けがあったから頑張れたのだと思います。

次男が年長になって、進学先を決めなくてはいけない時期になりました。



支援学校の見学や1学年上のお母さんたちの話を聞く会にも参加しましたが、なかなか決められず、他市にある支援学校にも見学に行きました。どうしたら良いものか、仲の良い先輩母にも相談しましたが、なかなか答えが見つけれません。次男が「ここへ行きたい」と言ってくれれば簡単なのに…。 つづく

遠い記憶の中に、私も言語セラピストから「障がいの子はひと所で育ったほうがいい。そこで大人になって年老いていくほうがいい」と言われ、夫の実家での同居を選択しました。嫁姑や小姑の苦労も一通りありましたが、歳を重ね、立場が変わればその苦労も違った風に見えるのも確かです。

しかし、子育てが始まったばかりのお母さん、ましては障がいの子を育てるといった想像すらできない壁にぶち当たる時期。共に立ち向かってくれる人が近くにいると心強いのですが…「子ども」には目が向かず「世間体という」これまた得体のしれないものにこだわってしまう、はて…これも人の業でしょうか。

さて次号は子育て最大の分岐点「就学先」の選択です。様々な思いから、親は悩んで、悩んで悩み疲れるほど悩みます。さて右か左か！いずれにせよ納得して選択をしたいものですが… 【徳永】

ぼくの学級！
わたしの学級！

蒲刈中学校

虹色学級・太陽学級



蒲刈中学校には虹色学級1年生1名、太陽学級1年生1名の生徒が在籍しており、とても仲の良い2人です。中学校生活にも慣れ、日々の学習や部活動に励んでいます。



特別支援学級校外学習



ALT との英語の授業

虹色学級 書写の時間で一生懸命練習し、書画作品展にも出品しました。



太陽学級 体育で伸膝前転の練習をし、何度も練習するうちに出来るようになりました。

↑夏休みには氷と塩を使ってアイスクリームを作りました。固まるまで30分程ひたすらかき混ぜました。



ペットボトルロケットを作成し、飛ばす実験をしました。遠くまで飛ばすことができました。



ほんにんかつどうほうこく 本人活動報告

おばし りゅうた
尾橋 隆太



がつ にち にち ほんにんぶかい はな あ
11月19日（日）本人部会の話し合いがありました。

ふくし けんたいかいおのみちたいかい ほんせい らいねん たの
福祉まつりと県大会尾道大会の反省をしました。来年も楽しみです。

かい うた きよく き たの うた
クリスマス会で歌う曲を決めました。みんなで楽しく歌いたいです。

あと ねんがじょう か じ か たつ は できあ
その後、年賀状を書きました。字をていねいに書きました。辰のシールを貼って出来上がり
ました。お昼ご飯の後、うたう会をしました。11月の歌を歌いました。



とくべつぜんこくしょうがいしゃ たいかい も かんどうか ごしましまたい お くわだ たくや
特別全国障害者スポーツ大会『燃ゆる感動鹿児島大会』を終えて 桑田 拓弥

たつきゅうきょうぎだいひょう えら はく か なが きかん すご たの かた
卓球競技代表として選ばれ、5泊6日と長い期間でしたが、凄く楽しくて、ボランティアの方や
代表同士のコミュニケーションとかが取れて充実した6日間になりました。

たつきゅう しあい けっか い く のこ かたち おうえん こと かんしゃ
卓球の試合の結果はリーグで2位という悔いが残る形でしたが、応援して下さった事に感謝
の心を持って試合に望めたことに成長したと実感しました。



隣のアスリート桑田くん

21区民生委員児童委員 南部 昭一

桑田くんとは長い付き合いの隣りに住んでいる民生委員のおっちゃんです。

人懐こい可愛い男の子は健やかに成長されていつか、社会人として活躍していました。

そして、天性のように思える卓球でメキメキと頭角を表して、この度は国体という大舞台で銀メダルを獲得して帰ってきました。

お土産を持って報告に来た桑田くんは、「残念ながら銀メダルでした。」とボソボソと言った。私は、桑田くん「おめでとう、すごいじゃないか〜。」と言ったら、「僕は金メダルが欲しかったんです。」と言った。なんとすごい、意欲満々の姿勢に圧倒された私は「また頑張ってチャレンジしてね。」と言いました。素直に「また頑張ります。」と言う彼が頼もしくも愛おしくも思えてなりません。ご両親、特にお母さんは並みならぬ愛情を注いで並走ってきて現在に至ったと思います。小さな頃は、見守っていたつもりだが、今は私が見守られています。ありがたく思っている幸せな隣人の民生委員のおっちゃんです。

☆ありがとうございました☆

【順不同・敬称略】(11月20日現在)



ご寄付を頂いた皆さま

香川 治子 匿名



サポートファイルを書こう

2月9日(木)10時~12時

子育ての記録をサポートファイルに書き始めてみませんか。

既に持っておられる方は、書き換え・書き加えをしましょう。

※サークルや小グループ等での出前学習会や、個人学習会も可能です。

ご参加ご希望の方またお問合せは、呉市手をつなぐ育成会までご連絡ください。



年末年始の休業のお知らせ

12月29日(金)から1月4日(木)

第47回 呉市立小中学校 特別支援学級合同作品展ご案内

日時: 1月19日(金)~1月23日(火)
9時~17時 ※最終日は14時まで

場所: 呉市役所1階多目的室



~ 昨年度の様子 ~

育成会だよりへのご意見ご感想があれば
お気軽にお寄せください。

編集後記

今年のカレンダーも残り一枚になり、時間の流れの速さに驚くばかりです。
子どもが幼い時は、早く大きくなってほしいと願ったものですが、成人期を過ぎた今は親子共に年を重ねていく不安が先に立ってしまいます。
本人部会のメンバーさんもそれぞれに年齢を重ね、家族の在り方もそれぞれです。いつまでも地域で共に暮らしていきたいという願っていた親御さんの状態が変化しても、本人さんの生活が地域で変わらず続けていけることを願うばかりです。
来年こそ穏やかな年になりますように。

~住まいのかかりつけ医を目指して~

井本建設株式会社グループ
株式会社 アイリフォーム

地元呉市密着をモットーに、リフォームのことならお気軽にご相談ください。

☎ 0120-117-145

呉市山手1丁目1番33号

<https://www-i-reform.co.jp/>

呉 アイリフォーム 検索

